

# ①抗HIV予防内服のための受診

## 針刺し・切創及び皮膚・粘膜曝露時の対応

- 1.直ちに曝露部位を大量の流水で十分洗浄する
- 2.施設責任者への報告をする
- 3.平日対応・夜間休日対応をフローに従い行動する
- 4.妊娠の有無を確認し、抗HIV薬の予防内服を検討する
- 5.予防内服をすることが決定したら、苫小牧市立病院へ電話連絡をする
- 6.必要書類3通を患者サポートセンターにFAX送信する  
FAX : 0144-33-4678 17時まで

- ・ ご紹介患者様 受診予約票
- ・ 抗HIV薬予防内服決定チャート
- ・ 抗HIV薬予防服用同意書/抗HIV薬予防投与依頼書

受診時に  
必要書類 3 通を  
ご持参ください

- 7.FAX受信後、すみやかに受診手続きを開始いたします
- 8.正面玄関から入り、右側18番「交通事故・労災受付」で手続き後、総合案内での受診手続きをお願いいたします  
(休日・夜間：夜間玄関から入り夜間・救急受付窓口事務職員の指示に従って下さい)

↓  
<参考資料>

経皮的なHIV曝露後予防についての推奨				
曝露のタイプ	曝露源患者の感染状況			
	HIV陽性	HIV感染状況不明	曝露源患者不明	HIV陰性
針刺し・切創	予防内服を推奨	予防内服なし（※注）	予防内服なし（※注）	予防内服なし
粘膜・傷のある皮膚	予防内服を推奨	予防内服なし（※注）	予防内服なし（※注）	予防内服なし
正常皮膚	予防内服なし	予防内服なし	予防内服なし	予防内服なし

（※注）曝露源患者のHIV感染状況が不明の場合や、曝露源患者が不明の場合であっても、HIV陽性患者由来の可能性が高いと考えられる場合には抗HIV予防内服を考慮する。

「予防内服考慮」という指示は予防内服が任意で有り、受傷者と担当医師の間においてなされた自己決定に基づくものであることを示す。もし、予防内服が行われ、その後に曝露源患者がHIV陰性とわかった場合には予防内服は中断されるべきである。